

# 平成30年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第11号(2月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(平成31年1月24日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並が多い	平年並か少ない

○2月の発生予報 (沖縄群島)

作物	病害虫名	1月の発生量 (現況)	2月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さとうきび	① カンシャワタアブラムシ	多	↗	寄生株率の例年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	多	↗	芯枯茎率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	③ メイチュウ類(イネヨトウ)	多	↗	芯枯茎率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
かんきつ (温州みかん)	① かいよう病	(発生なし)並	↘	発病葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。
	② そうか病	やや多	↘	発病葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。
	③ ハダニ類	並	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
かんきつ (タンカン)	① かいよう病	並	↘	発病葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。
	② そうか病	並	→	発病葉率の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	③ ハダニ類	並	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○2月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	1月の発生量 (現況)	2月の 増減傾向	増減傾向の根拠
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量だと考えられる。
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	→	発生株率の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量だと考えられる。
	③ ハダニ類	並	→	雌成虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量だと考えられる。
かぼちゃ	① モザイク病	(発生なし)並	↗	発病株率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	② うどんこ病	並	↗	発病株率の平年の推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	③ アブラムシ類	(発生なし)並	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	④ ハモグリバエ類	(発生なし)並	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ タバココナジラミ	並	→	成虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
キャベツ	① 菌核病	(発生なし)並	↗	発病株率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	② 黒腐病	(発生なし)並	→	発病株率の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	③ コナガ	並	→	幼虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	④ ウワバ類	並	↘	幼虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。
レタス	① 菌核病	(発生なし)並	↘	発病株率の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。
	② 腐敗病	(発生なし)並	↗	発病株率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	③ 軟腐病	並	↘	発病株率の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。
	④ アブラムシ類	(発生なし)並	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○2月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	1月の発生量 (現況)	2月の 増減傾向	増減傾向の根拠
ゴーヤー (施設)	① モザイク病 (スイカ灰白色斑紋ウイルス以外)	(発生なし)並	↗	発病株率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	② うどんこ病	並	↗	発病葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	③ 斑点病	(発生なし)並	→	発病葉率の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	④ つる割病	(発生なし)並	↗	発病株率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ ミナミキイロアザミウマ	並	↗	成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	⑥ アブラムシ類	並	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
トマト	① 黄化葉巻病	(発生なし)並	↗	媒介虫であるタバココナジラミが多発生していることから、1月より発生量は増加すると考えられる。
	② 菌核病	(発生なし)並	↗	発病株率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	③ うどんこ病	やや多	↗	発病株率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	④ すすかび病	並	↗	発病株率の例年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ タバココナジラミ	多	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、1月より発生量は増加すると考えられる。
	⑥ ハモグリバエ類	やや多	→	寄生葉率の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
ピーマン	① モザイク病	(発生なし)並	↘	発病株率の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。
	② うどんこ病	並	↗	発病株率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	③ タバココナジラミ	やや多	↘	成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。
	④ ハダニ類	(発生なし)並	→	寄生株率の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○2月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	1月の発生量 (現況)	2月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さやいんげん (平張)	① 菌核病	(発生なし)並	→	発病株率の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	② タバココナジラミ	やや多	↘	成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	↗	成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	④ ハダニ類	並	↘	雌成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。
小ギク (彼岸出荷用)	① アザミウマ類	並	→	成虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	② アブラムシ類	並	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	③ チョウ目幼虫	(発生なし)並	→	幼虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	④ ハダニ類	(発生なし)並	→	雌成虫数の例年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
かぼちゃ	細菌病	ほ場周辺にソルゴーや防風ネット等による防風垣を設置し、収穫期まで残す。 降雨や強風が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前後の予防散布を徹底する。
ゴーヤー	モザイク病 (スイカ灰白色斑紋ウイルス)	灰白色斑紋病以外のウイルス病は主にアブラムシ類によって媒介される。 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しビニール袋に入れて密閉処分する。 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。

# 平成30年度 宮古群島 病害虫発生予報 第11号(2月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(平成31年1月24日発表:沖縄气象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か多い	平年並か少ない

○2月の発生予報 (宮古群島)

作物	病害虫名	1月の発生量 (現況)	2月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	やや多	↘	芯枯茎率の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	やや多	↘	芯枯茎率の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	→	成虫のトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	② ハダニ類	やや多	→	雌成虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
とうがん (施設)	① うどんこ病	並	↗	発病葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↗	つる先の成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ハモグリバエ類	(発生なし)並	↘	寄生葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。
	④ タバココナジラミ	(発生なし)並	→	成虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	⑤ ハダニ類	並	↗	雌成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
ゴーヤー (施設)	① うどんこ病	並	↗	発病葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	② 斑点病	並	↗	発病葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	↗	葉当たり成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	④ タバココナジラミ	(発生なし)並	↗	成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ アブラムシ類	(発生なし)並	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャワタアブラムシ	宮古群島で広く発生報告がされている。 無翅虫の成虫や幼虫が葉裏に群がって、体表から大量の白いワックスを分泌する。 本種の吸汁により生育が遅延する。 本種は、秋に有翅虫が新植の夏植さとうきびに定着し、春の大発生の原因となる。 特に新植の夏植さとうきびについては、2～3月の薬剤防除に努める。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	せん定枝や収穫後の残さは感染源となるのでほ場外に持ち出し処分する。 出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行い、予防に努める。
かぼちゃ	モザイク病	1期作でモザイク病が多発したため引き続き注意が必要である。 ほ場周囲に防風対策を兼ねたソルゴーや防虫ネット等を設置し、媒介虫であるアブラムシ類の飛来侵入を防ぐ。 媒介虫の密度が低くても感染力は高いので、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。 発病株は感染源となるので見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。
かぼちゃ	うどんこ病	宮古島全域でうどんこ病の多発生が確認された。 発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。 生育初期は徒長しないよう管理し、予防散布を行う。 着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
かぼちゃ	細菌病	着果期以降のほ場で多発生が確認された。 ほ場周囲にソルゴーや防風ネット等による防風垣を設置し、収穫期まで残す。 敷草を行い、土はねによる感染を予防する。 降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前後の予防散布を徹底する。 ハモグリバエ類による食害痕から細菌が侵入し発病するためハモグリバエ類の防除も併せて行う。
とうがん	ウイルス病	宮古島市内のほ場で本病の発生が確認された。 PRSV-RIはアブラムシ類、WSMoVやMYSVIはミナミキイロアザミウマによって伝搬される。 葉脈が白く浮き出て見える症状(葉脈透過)や、葉の奇形などの症状を示す。 発病株は感染源となるので、抜き取ってほ場外に持ち出し、ビニール袋などに入れるかして密閉処理する。 いずれのウイルスも汁液感染するため、管理作業に使用するハサミなどの消毒、洗浄を徹底する。
ゴーヤー	チャノホコリダニ	20℃での卵から成虫までの発育期間は13～17日と短く、短期間のうちに高密度になりやすいため、早期発見・防除に努める。 薬剤が到達しにくい生長点付近や未展開葉に潜っていることが多いため、薬散は丁寧に行う。 ほ場内外に寄主植物(主にナス科雑草)が無いよう除草に努める。

# 平成30年度 八重山群島 病害虫発生予報 第11号(2月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（平成31年1月24日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か多い	平年並か少ない

○2月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	1月の発生量 (現況)	2月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	やや多	→	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	やや多	→	芯枯茎率の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	→	成虫・幼虫数及び誘殺虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	② ハダニ類	並	↘	雌成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。
かぼちゃ	① モザイク病	(発生なし)やや少	→	発病株率の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	② うどんこ病	多	→	発病葉率の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	③ アブラムシ類	やや少	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	④ ハモグリバエ類	やや多	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ タバココナジラミ	やや少	→	成虫数の平年の発生推移から、発生量は1月と同程度と考えられる。
ゴーヤー (施設)	① うどんこ病	少	↗	発病葉率の例年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	② 斑点病	並	↗	発病葉率の例年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	(発生なし)やや少	→	つる先及び葉当たり成虫数の例年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	④ タバココナジラミ	(発生なし)やや少	→	成虫数の例年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。
	⑤ アブラムシ類	(発生なし)やや少	→	成虫・幼虫数の例年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャワタアブラムシ	防除員の報告によると、波照間島で中発生が確認された。 また石垣島でも一部地域で被害が確認された。 多発すると吸汁害及びすす病によりさとうきびの生育が遅延するため、早期発見・防除に努める。 薬剤散布の際は、収穫予定のさとうきびや近隣作物へのドリフト（飛散）に留意し、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。 また多発時は有翅虫が絶えず移動分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。
さとうきび	野そ	防除員の報告によると、波照間島で少発生が確認された。 石垣島における11月の調査でも多発生が確認されており、蔗茎の糖度上昇による被害拡大が懸念される。 管理されない耕地などで繁殖するので、ほ場周辺も含めて雑草防除等の管理作業を行う。 また被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
かぼちゃ	細菌病	1月中旬の調査の結果、発病葉率は63.4%（前年25.2%）であった。 ほ場周囲にソルゴーや防風ネット等による防風垣を設置し、収穫期まで残す。 降雨や強風が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前後の予防散布を徹底する。



向こう1か月の天候の見通し  
 沖縄地方（1月26日～2月25日）

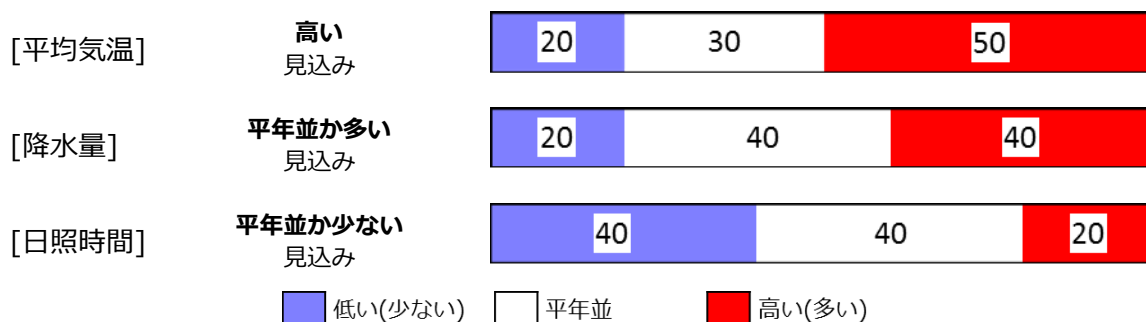
○ 気象予報のポイント

- 向こう1か月の天候は、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の平均気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。
- 向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。
- 向こう1か月の日照時間は平年並か少ないでしょう。期間のはじめは日照時間の少ない状態が続く所があるでしょう。



気象庁マスコットキャラクター  
はれるん

○ 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間

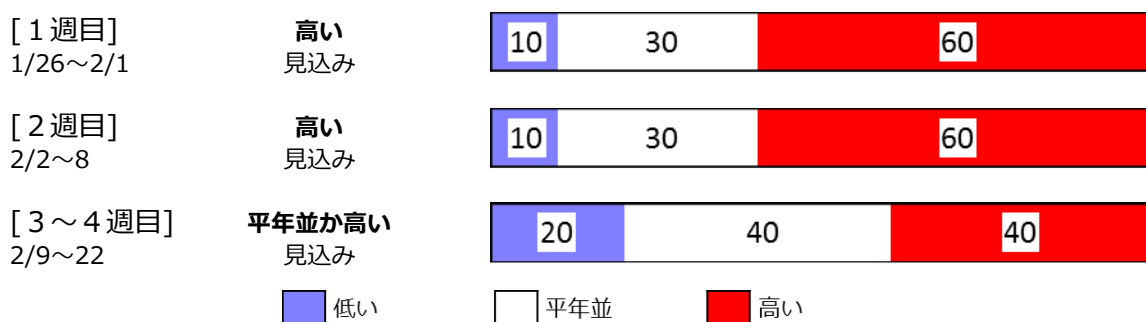


数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
沖縄地方	平年差：-0.3～+0.4℃	平年比：75～108%	平年比：76～110%
那覇	16.5～17.3℃	66.6～125.6mm	67.2～97.4時間

○ 週別の平均気温



数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1週間）	平均気温（2週間）	平均気温（3～4週間）
沖縄地方	平年差：-0.7～+0.5℃	平年差：-0.7～+0.6℃	平年差：-0.4～+0.5℃
那覇	15.9～17.1℃	16.0～17.3℃	16.9～17.9℃

※ 沖縄地方の平年差（比）は、那覇・久米島・宮古島・石垣島・与那国島の5地点平均値です。

※ 平年並の範囲は、過去30年間（1981～2010年）の値から統計的に求めています。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



## 沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>

本 所	〒902-0072 那覇市字真地123 TEL 098-886-3880 FAX 098-884-9119
宮古駐在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40(農研センター宮古島支所内) TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八重山駐在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6(農研センター石垣支所内) TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157